長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2021 JULY VOL.393

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



日本の歴史公園100選の一つの大村公園をお散歩中のヘリドッグ太くん。
夏の暑い日差しはつらいけど、お散歩は楽しんだようです。

診療科紹介 update
Vol.17 泌尿器科

医長紹介 ～私の専門分野～
ラジオ波焼灼療法における
画像支援技術の積極的活用

TOPICS
- 新任医師紹介
- 永年勤続者表彰式
- 第2回長崎医療センター研修医学会開催される
- ハラスメント防止対策講演会、開催される
- 第118回日本消化器病学会・第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
- 第29回長崎救急医学会

薬剤部だより Vol.5

看護部だより Vol.33

医療相談支援センターからのお知らせ

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Update Vol.17

泌尿器科

泌尿器科領域の ロボット支援下内視鏡手術

泌尿器科部長　錦戸 雅春

今回は、泌尿器科領域を中心に拡大するロボット支援下内視鏡手術について取り上げます。

ロボット支援下内視鏡手術とは、アメリカのインテュイティヴ・サージカル社が開発した手術支援用ロボット「da Vinci™-ダビンチ-」を用いた手術のことです。2000年に登場し、本邦では2012年に前立腺癌の前立腺全摘出術（RALP）に保険適応となりました。現在泌尿器科では、腎癌の腎部分切除術（RAPN）、膀胱癌の膀胱全摘出術（RALC）、水腎症の腎盂形成術、臓器脱の仙骨膣固定術も保険収載されています。

実際には「サージョンコンソール」、「ペイシェントカート」、「ビジョンカート」からなり、術者はサージョンコンソールの操縦席にすわり、操作部に映し出される鮮明な3D画像を見ながら手元の操作レバーやペダルを操作するとその動きがコンピューターに伝わり、コンピューターが「ペイシェントカート」の4本のロボットアームを動かし、装着されている鉗子やメスを操作します。助手は傍らに立ち腹腔鏡用の鉗子でアシストをしたり、ロボットアームの交換を行います。コンピューターのCPUに相当する「ビジョンカート」のモニターに手術中の画像が映し出され、手術スタッフも同じ画像が共有されます（図1-4：長崎大学泌尿器科 計屋知彰先生よりご提供）。



図1. 手術外観・助手・ビジョンカート(長崎大学)



図2. da Vinci Si サージョンコンソール（長崎大学）



図3. コントローラ操作

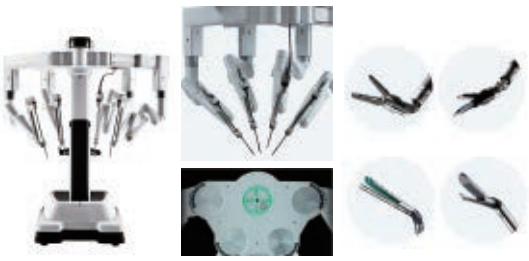


図4 da Vinci Xiのペイシェントカートとアーム・鉗子先端

泌尿器科領域ではすでに低侵襲の腹腔鏡手術が普及していますが、**さらにロボット支援手術は、①3次元（立体）の鮮明な画像で手術が行える、②小さな鉗子で手術機器の先端に関節が7個あり人間の手首以上の270°大きな可動域があり、執刀医の指、手の動きの通りに操ることができる、③手振れ補正機能がある**等の利点があげられ、狭い、深い視野でも、従来の手術よりさらに正確で緻密な手術が可能となっています。RALPでは通常の腹腔鏡下手術に比較して、出血が少ない、入院期間が短い、合併症が少ないとのエビデンスがあり、またRAPNでは腎縫合時間の短縮により腎の阻血時間が少ないなどのエビデンスが報告され、腹腔鏡手術に加えて1例につき前立腺が17350点、腎部分切除が6000点の加算がついています。現在全国では約400台のda Vinci™が導入され、前立腺全摘出術はその約8割が、そして腎部分切除術も約6割がロボット支援手術で行われています。

長崎県では長崎大学において2014年に導入され、現在第四世代のda Vinci™-Xiが2台稼働しています。2020年はRALPが123例、RAPNが51例、RALCが13例、合計187例が施行され年々増加してきています（図5）。最近は泌尿器科手術だけではなく、2018年には縦郭腫瘍、肺がん、食道がん、胃がん、直腸がん、子宮がん、2021年には膵がんの手術にまで適応が拡大され、長崎大学でも婦人科領域で約100例、直腸がんでも100例以上のロボット支援手術が行われています。

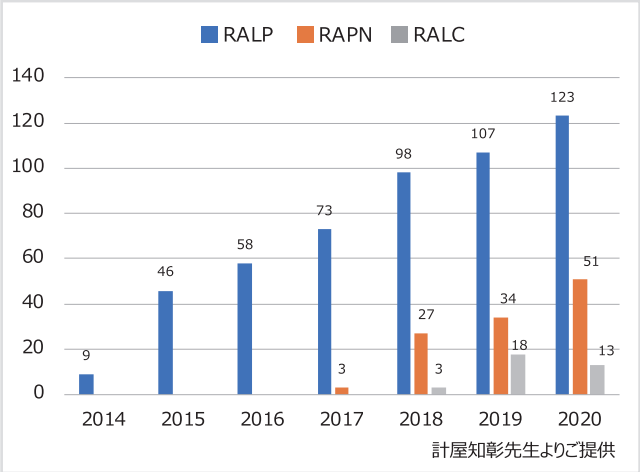


図5　ロボット支援腹腔鏡下手術（長崎大学泌尿器科）

当科での2020年の悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術は63例であり、来年腎摘出術が保険適応となれば、そのすべてがロボット支援手術の適応となります（図6）。当科の腹腔鏡手術の技術はすでに円熟しており、その成績は決してロボット支援手術と遜色ないと考えておりますが、他の外科領域の手術にも次々に適応が拡大され、まさに泌尿器科だけではなく、外科系全体で標準手術となってきております。2019年には基本特許の多くが切れて、今後国産（hinotori™）を含めて様々な手術支援ロボット手が誕生していくことも期待されます。

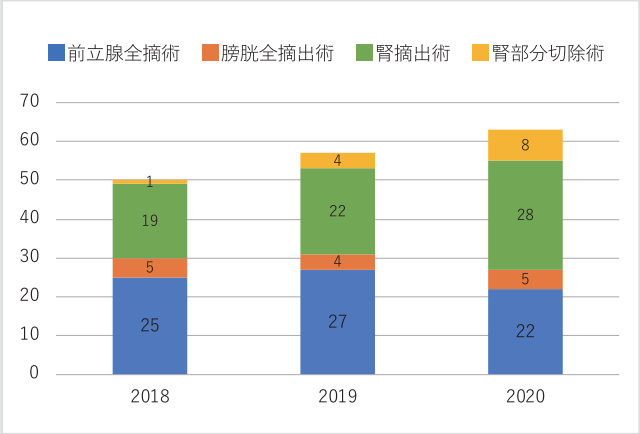


図6　当科の腹腔鏡下手術

本年6月からは佐世保市立総合医療センターでも導入され手術が始まっています。時代の流れに遅れることなく、新しい技術を導入することが、地域医療の質向上や、外科系志望の研修医や優秀な外科医のリクルートにも直結することになると思います。

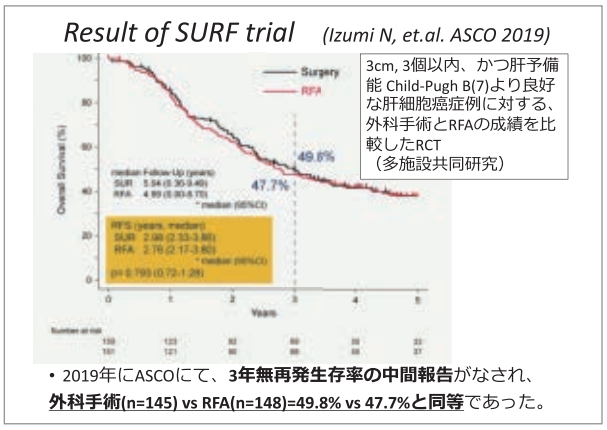
医長紹介　～私の専門分野～

ラジオ波焼灼療法における画像支援技術の積極的活用



肝臓内科医長　本吉 康英

経皮的肝局所療法の代表格であるラジオ波焼灼療法（RFA）は小型肝癌に対する標準治療で、その適応は3cm・3個以内とされています。超音波機器（エコー）観察下で実施する全身麻酔を要さない低侵襲治療でありながら、2019年本邦より報告されたSURF trialでは3年無再発生存率で外科手術に拮抗する成績と報告されました。



私の前任地・長崎みなとメディカルセンターではRFA実施件数が多く、特に2005年～2012年にかけては年間100件以上のRFAを実施していました。その後、全国的な肝癌減少傾向と共に件数は減少していますが、同院の12年間あたりの初発肝細胞癌症例は518例と当院より250例程度は少ないのに対し、RFA件数はここ5年でも30-50件/年と、当院施行件数（13-22件/年）の倍以上でした。

その要因として、RFAの穿刺技術および関連手技の継承・発展、新たな画像支援技術の積極的活用が挙げられます。ここでは、RFA時に用いる2種の画像支援技術について提示します。

①Fusion imaging

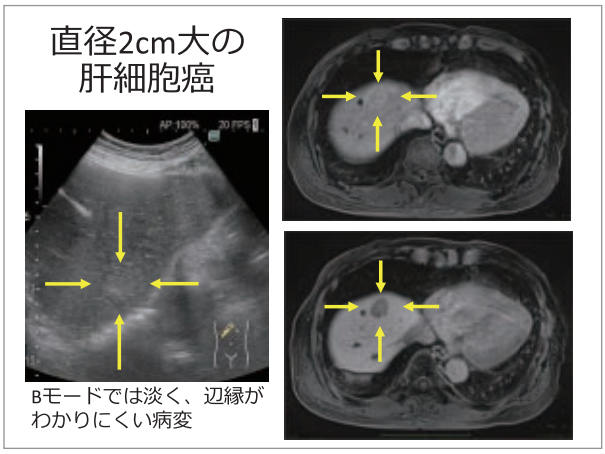
エコー検査の際、あらかじめ撮影されている造影CTやMRIの画像を3次元的に同期させ、リアルタイム参照画像とする技術です。この技術は10年以上前からありますが、エコー機器の性能向上により、簡便で高精度となったため、日常的に使用できるようになりました。

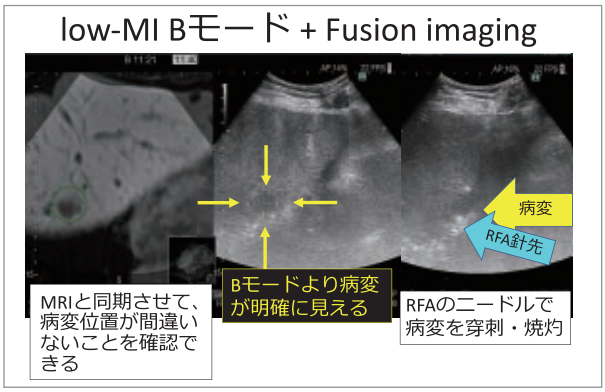
②low-MIモードによるソナゾイド造影エコー

造影エコーも10年以上前よりありますが、通常のソナゾイド造影で得られる画像は粗く、治療処置に用いるのは厳しいものです。しかしlow-MIモード（Bモード画像を造影用に調整したモード）で、治療処置に耐えうる画質を得ることが可能です。

これら2つの技術を駆使することで、旧来機では確認し難い病変を描出し、治療することが可能となりました。

症例を提示します。使用超音波機器はアリエッタ850®（日立製作所製）です。





20mm大の病変ですが、観察しにくい場所で、Bモードでは淡く不鮮明です。Fusion imagingを用いて病変位置を正確に同定し、low-MIモードの造影エコーで明瞭に描出した上で病変をRFAで治療しました。

もちろんRFA自体は数ある肝細胞癌の治療の一つにすぎず、肝細胞癌の治療は外科・放射線科との緊密な連携が重要です。しかし、多発・再発を繰り返す肝細胞癌に対し、RFAは低侵襲かつ繰り返しの治療も可能な有用な手段であり、転移性肝癌にも応用可能です。この技術を更に磨くことで、少しでも肝癌治療の幅を広げていきたいと考えています。

TOPICS

新任医師紹介



放射線科医師
大塚　哲洋

7月より放射線科に赴任致しました大塚哲洋と申します。2018年10月～2020年3月にもこちらでレジデントとして勤務しておりましたので、出戻りとなります。放射線科医として画像診断と血管造影に今後も研鑽を積み、同時に当院や地域に貢献していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



眼科医師
村上　隆哉

7月より佐世保市総合医療センターより赴任してまいりました、眼科の村上隆哉と申します。

長崎出身で山形大学卒業後、初期研修を経て長崎大学病院の眼科に入局させていただきました。
長崎医療センターでの勤務は初めてで、至らぬ点も多いかとおもいますが、どうぞよろしくお願いいたします。



眼科レジデント
大槻　早紀

7月より眼科に赴任いたしました大槻早紀と申します。長崎医療センターで2年間初期研修をさせていただいた後、1年間長崎大学病院眼科で勤務し、今回再び勤務させていただくこととなりました。大村の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。ご指導の程よろしくお願い致します。

TOPICS

永年勤続者表彰式

国立病院機構では、永きにわたり機構に貢献していただいた職員に、勤続30年と勤続20年の節目の年に表彰をおこなっています。今回は勤続30年が4名、勤続20年が16名の計20名の職員が表彰されました。これまでの貢献に感謝申し上げますとともに、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



30年表彰受賞者

職　名	氏　名
専　門　職	松内　みゆき
看　護　師	古賀　美保子
看　護　師	町田　幸子
看　護　師	田川　恵美子

20年表彰受賞者

職　名	氏　名
統括診療部長	吉田　真一郎
臨床検査科医師	伊東　正博
緩和ケア科部長	濵脇　正好
高度救命救急センター長	中道　親昭
看護師長	廣瀬　智美
看護師長	榊原　チハル
看　護　師	佐藤　理恵子
看　護　師	隅田　成美
看　護　師	中尾　美智代
看　護　師	平川　雅子
看　護　師	川口　美紀
看　護　師	田端　久美子
看　護　師	濱崎　千恵子
看　護　師	愛合　美穂
看　護　師	藤本　誠子
看　護　師	田中　里枝

第2回長崎医療センター研修医学会開催される



教育研修管理運営部長　長岡 進矢

6月5日(土)にあかしやホールにて、第2回院内研修医学会が開催されました。　昨年10月開催の第1回の振り返りをもとに、もう少し早い時期に演題発表を経験してもらおうと、今回6月の開催としました。限られた準備期間の中、全23演題、質疑も含めどの発表も素晴らしかったです。1年次の先生方も積極的にディスカッションに参加し、会を盛り上げてくれました。今回の演題を、是非オフィシャルな学会での発表や論文執筆につなげていってもらえればと思います。



第２回長崎医療センター研修医学会

演題一覧

1. 腹腔鏡下鼠径ヘルニア術後にメッシュ腸管癒をきたした一例
2. 遅発的に外傷性脾出血を生じた一例
3. 脳室腹腔シャントチューブが上行結腸内に迷入した一例
4. 脾動静脈が螺旋状に捻転した遊走脾に対して腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した一例
5. 当院における臍ヘルニア嵌頓症例の検討
6. 胆嚢管症候群の一例
7. 横隔膜ヘルニアを伴う横隔膜損傷に対し腹腔鏡下横隔膜修復術を施行した一例
8. 肺癌との鑑別が困難であった、限局性結節性肺アミロイドーシスの一切除例
9. 治療に難渋した Birt-Hogg-Dube 症候群疑いの一例
10. ステロイド内服中に発症した気胸の一例
11. 腸型肺腺癌の一切除例
12. 十二指腸静脈瘤の再破裂に対して Dual balloon-occluded embolotherapy (DBOE) を施行した一例
13. 妊娠 15 週の子宮筋腫核手術に対し全身麻酔下に管理した一症例
14. 免疫チェックポイント阻害薬により筋炎、心筋炎を発症した一例
15. 高度の意識障害と四肢麻痺、排尿障害で発症した急性散在性脳脊髄炎（ADEM）の一例
16. 滑車神経麻痺のみを呈した急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) の一例
17. RSV 感染症に対する当院での RTX の使用状況
18. 長期在宅を続けている Trisomy 18 (Edwards syndrome)
19. 意識消失発作を伴う単形性持続性心室頻拍で発症した超高齢の不整脈原性右室心筋症の一例
20. 自宅看取りを希望した患者の最終的な看取り場所及びその関連要因についての検討
21. 化学療法後に顕在化した肺野病変を伴わない Nocardia araoensis よる縦隔リンパ節膿瘍、脳膿瘍の一例
22. 続発性赤芽球癆による高度貧血が原因と考えられた脳梗塞の一例
23. Pasteurella multocida による感染性心内膜炎が疑われた一例

2年次研修医　大木 雅晴

コロナ禍で学会発表の機会が少ない中、このような発表の機会を頂けたことを大変喜ばしく思います。昨年の先輩方のような立派な発表ができるか不安な気持ちもありましたが、発表時は緊張の面持ちを浮かべながらも、全員堂々たる姿勢で発表できていたように思います。

学会当日は休日早朝からの開催にも関わらず、多くの先生方に参加頂きました。発表内容に対して活発に質疑を頂き、発表に対する知見を深めるいい機会になりましたし、研修医同士でも活発な質疑が飛び交い、普段の生活では目にすることない知的な一面に刺激を受けた人もいるかと思います。個人的には、緊張感の中に時々笑いもある今回の学会の雰囲気がとても好きでした。

最後に、発表当日に足を運んでいただいた先生方、熱心にご指導くださった指導医の先生方、座長を務めていただいた先生方、準備や進行に携わって頂いた教育センターのスタッフの方々含め、関係者の皆様に深謝申し上げます。

1年次研修医　中平 皓太

先月執り行われた研修医学会では、様々な質疑応答と活発なディスカッションが繰り広げられ、1年次研修医にとっても非常に有意義な学会となりました。日々の業務の合間を縫って、先輩方は研修医室で夜遅くまで資料作りに励み、指導医から発表の予行練習を行う姿を見てきました。堂々と発表し質疑に答える姿は頼もしさを感じると同時に、来年は自分達が後に続こうと気が引き締まる思いでした。

当院では職員の研究活動を支援するバックアップが整っており、私達研修医も日々の診療の中で経験した症例や疑問点を文献検索やデータの解析を行い、学会発表ができる機会があります。これらの発表を通じて学習した経験を患者さんに還元できるように努めて参ります。



TOPICS

ハラスメント防止対策講演会、開催される

副院長　八橋 弘

令和３年６月２９日、17時から令和３年度のハラスメント防止対策講演会があかしやホールにて開催されました。本講演会は、職場におけるハラスメントを防止し、安全で働きやすい職場をつくることを目的として、院内の管理者を対象として企画しました。講師は、弁護士法人ふくざき法律事務所の弁護士の福﨑博孝先生です。「職場でのハラスメントについて-パワハラ防止法の解説を中心として」というタイトルで1時間ほど、ご講演いただきました。

多くの実例を紹介されながら、パワハラ防止法におけるパワハラの定義、行為類型、事業者の責務と労働者の責務、講ずべき措置などについて系統だってお話しいただきました。聞いていて、パワハラをとてもリアルな問題として受け止めることができ、また、この問題の本質を理解することができました。

講演終了後に数名の参加者に感想を聞いたところ、「素晴らしい講演、とてもわかりやすかった」「時代は変わった」「パワハラ認定者に自覚症状がないことに納得」「厳しい教育指導とパワハラは表裏一体」「改めて言動に注意しなければ」「人と人とのつながりが希薄となっている今、厳しくとも愛があるかないか、愛が伝わっているかどうかで違う」などという声が寄せられました。



福﨑先生からは「上司として部下に対しては淡々と指導しながらも、しかし、どこかでパワハラになっていないのか気をつけていただきたい」という言葉で講演をまとめていただきました。当院としては、今後も継続的にこの問題解決に取り組みながら、本講演で学んだことを職場環境の改善に生かしてゆきたいと思います。





TOPICS

第118回日本消化器病学会・第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会

難治性疾患研究部長　小森 敦正

この度第118回日本消化器病学会九州支部例会を、第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(会長 五島中央病院長竹島史直先生)と共に、12月3-4日の日程で、長崎市出島メッセ長崎(11月開業)にて合同開催させて頂くことになりました。

「**消化器病診療の明日へ－適応と進化－**」という例会テーマのもと、主題演題では、肝細胞癌をはじめとしたがん診療のアップデート、炎症性腸疾患の個別化医療、胆膵・大腸内視鏡下治療手技の現状と展望というメインストリームばかりでなく、十二指腸非乳頭部腫瘍、肝胆膵難治性疾患も取り上げました。医療現場における症例と成果と工夫を、普遍性と個別性を、コロナ時代の消化器病診療の現状を、支部例会にみなぎる若いエネルギーの中から、発表されることと信じております。

Pandemic年の師走にハイブリッド開催です。WEB配信により、参加に係わる利便性を担保しながらも、対面でのコミュニケーションと議論を再開できる“場”であることを願っております。多くの皆様方のご参加を、心よりお待ちしております。



【会 期】 2021年12月13日(金)・14日(土)
【会 場】 出島メッセ長崎

TOPICS

第29回長崎救急医学会

高度救命救急センター長　中道 親昭

この度9月4日に第29回長崎救急医学会を開催させて頂くことになりました。

現在我々は新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に遭遇し、未だ感染対応を余儀なくされる中ではありますがワクチン接種開始という分岐点を迎えたこともあり、新型コロナウイルス感染症対応に関し、情報共有できる場として本学会を活用したいという考えに至りました。今回はテーマを「**新型コロナウイルス感染症との闘いの記録～それぞれの立場からの報告～**」とし、様々な機関・職種の立場の方々に、ご発表いただく予定としています。今後新たな感染症の脅威にさらされた時、この記録がきっと有用な資料になると信じています。

本学会もwithコロナの時代に応じた開催方法となり、集合対面方式開催の可否に関わらず、参加者はもれなく全ての演題を視聴できるようになりますので多数の事前登録によるご参加をお願いいたします。



【会 期】 2021年9月4日(土)
【会 場】 国立病院機構長崎医療センター　人材育成センター

薬剤部だより Vol.5



外来化学療法センターにおける薬剤師の業務について

薬剤部薬務主任　金澤 絵莉

近年、外来がん化学療法の普及により、病院薬剤師は入院患者だけではなく外来患者への介入も求められ、多岐にわたる活動を展開しています。外来化学療法における薬剤師業務に関連して、2014年の診療報酬改定において200点/回のがん患者指導管理料3（2019年よりがん患者指導管理料ハ）が策定され、さらに2020年より連携充実加算（150点/月）も新設されました。また、薬剤師による介入は副作用対策や服薬アドヒアランスの向上による薬物療法の完遂率の向上のほか、重篤な副作用による入院の回避など医療経済的な医療費削減効果、さらには医師の負担軽減にも繋がると考えられ、外来患者への薬剤師業務がさらに望まれています。

当院薬剤部では、現在5名の薬剤師が、がんに関連する資格（日本医療薬学会・日本病院薬剤師会・日本臨床腫瘍薬学会）を取得しており、外来化学療法センターにおいて業務に従事しています。主な業務内容は、抗がん剤の用法・用量や投与スケジュール等のレジメン内容の確認・説明、副作用（嘔気・手足症候群・



外来化学療法センターにて



皮膚障害・末梢神経障害等）の説明および医師への処方支援（制吐剤等の副作用の症状改善を目的とした処方提案、腎機能等を考慮した抗がん剤の用量調整の提案、採血オーダーの確認・提案等）を行っています。加えて、点滴の抗がん剤治療だけではなく、内服の抗がん剤（カペシタビン、S-1、トリフルリジン・チピラシル塩酸塩、パルボシクリブ、アベマシクリブ等）についても同様に説明とモニタリングを行っています。

また、日本臨床腫瘍薬学会の「がん診療病院連携研修認定病院」の認定を受け、保険薬局薬剤師の研修も受け入れています。さらに当院の若手薬剤師も認定資格の取得を目指し、日々研鑽しており、がん化学療法における専門的な知識を有した薬剤師の育成についても寄与していきたいと考えています。

今年度から外来化学療法センターが移転し、ベッド数は今後20床まで増加が予定されています。今後も医師・看護師・栄養士・歯科衛生士・ソーシャルワーカー・ドクターズクラークなど多職種で連携しながら、化学療法の安全性と有効性の確保に貢献できるよう努めていきたいと思います。

看護部だより Vol.33

大村市における“がん教育”

医療相談支援センター係長
がん看護専門看護師　田中 圭



がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育です。

第3期がん対策推進基本計画（平成29年度～令和4年度）では、「国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める。」ことが示されています1）。それを受けて当院でも大村市や中学校と協議し、2020年度から『桜が原中学校における「（外部講師を活用した）がん教育の実施」に向けて』を検討してきました。残念ながら2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、計画していたがん教育を行うことは出来ませんでしたが、ようやく今年度、実施することが出来ました。







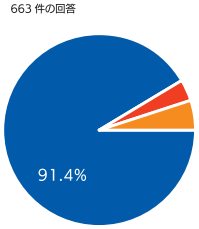
当初、大村市立桜が原中学校では、地域、保護者へも案内をし、1000名規模のがん教育講演会を企画されていましたが、緊急事態宣言等もあり公開講座ではなく授業という形で実施しました。今回は6月28日（月）に大村市立桜が原中学校の約750名が参加をしてくださいました。方法はオンライン形式として、授業の構成は前半を医療従事者が担当し、「がんについての基礎知識」「がん予防・早期発見」について、後半は、がんサバイバーが担当し、「がんへの偏見をなくすこと」「いのちの大切さ」についてです。

桜が原中学校では生徒に「がんについて」事前・事後アンケートを実施しています。今回は事後アンケートの一部を紹介します。

事後アンケート

1　がんは身近な病気だと思う。

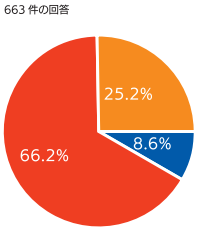
663 件の回答



- そう思う
- そう思わない
- わからない

3　がんになったら、治らないと思う。

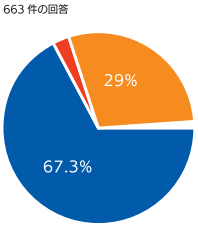
663 件の回答



- そう思う
- そう思わない
- わからない

4　将来がんの検査をうけようと思う。

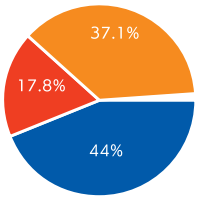
663 件の回答



- そう思う
- そう思わない
- わからない

8　家族と身近な人とがんについて話し合おうと思う。

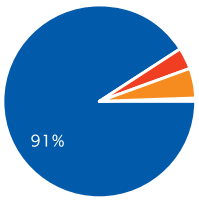
663 件の回答



- そう思う
- そう思わない
- わからない
- その時の気分
- 時々
- 抵抗がある
- どちらかといえばそう思う
- 話す機会があれば話そうと思う

11　がんは誰もがかかる可能性のある病気である。

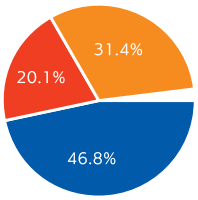
663 件の回答



- そう思う
- そう思わない
- わからない
- 生活習慣などをきちんとしていればなるリスクは低いと思う。
- そう思うが、幼い頃から食に関して厳しくしておけば、大人になってからかかる可能性は低いのではないか。

15　がんになっても充実した生き方ができる。

663 件の回答



- そう思う
- そう思わない
- わからない
- ステージが上がったらなくなる人もい…
- 多少苦しむと思うけど充実した生活を…
- 薬がつらそう
- 人によって変わると思う。
- その人の性格次第だと思う。

～ある生徒の感想～

今回のがん教育講演会で、がんへの知識が深まり、がんは誰もがかかる恐ろしい病だと感じました。しかし、がんを患ったとしても生きる希望があるということを知りました。今後、いつ死がくるか分からない中、一日一日を悔いなく過ごしていきたいと思いました。



大切な人へのメッセージカード

がんは日本人の2人に1人が罹患する病になりました。そして3人に1人ががんで亡くなっています。これを皆さんはどのように解釈されるでしょうか。「多くの方ががんに罹患し、がんで亡くなっている」と捉えるか「3人に2人が、がんで亡くなっていない」「約7割はがんが治っている」と捉えるか、捉え方は様々だと思います。その中で、がん患者さんは「根治が出来た」「癌は全て取り除けた」と病院で告げられた後も、再発するのではないかという恐怖と何年、何十年と戦っています。

がん教育は、がんを正しく知り、正しく恐れることで、ご自身・ご家族が対処する方法を身に付けることができ、がんを通して「いのちの大切さ」を改めて家族と考える機会になります。また、がんに罹患しながらも、その人がその人らしく生活ができる社会づくりにも寄与できると考えます。今後もこのような活動を継続していくために、どのような体制づくりが必要か、地域の皆さんと考えていきたいと思います。今回、ご支援いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



参考資料：令和2年度がん教育研修会・シンポジウム：文部科学省（mext.go.jp）

医療相談支援センターからのお知らせ

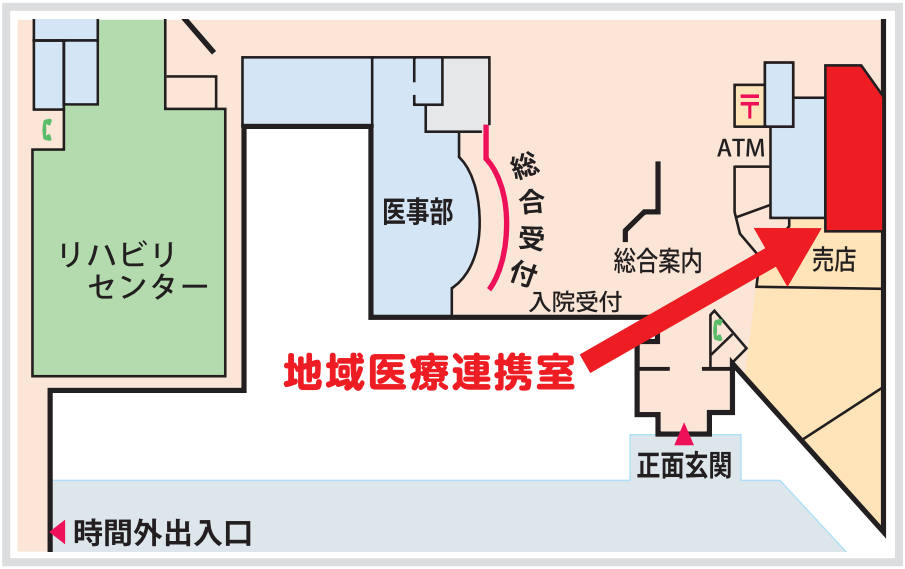
この度、7月19日（月）に**地域医療連携室の場所が移転しました。**

以前の場所よりも敷地面積も広くなり、患者さん、ご家族、地域の医療福祉関係者の皆様からもアクセスが良くなりました。院内、院外の皆様にも開かれた地域医療連携室を目指しております。是非、お気軽にいらしてください。スタッフ一同笑顔でお待ちしております。

（江崎院長、八橋副院長、吉田統括診療部長、西山看護部長も遊びに来てくれました📷）









面談室



カウンター



理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する